

個別事業(取組)評価				
事業No.	4	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革	
事業名称	算数・数学学力定着事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	5,512
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	4,790

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童生徒の算数・数学科における学力の状況は改善傾向にはあるが、特に数学科については、依然として全国平均を下回っている状況にある。</p> <p>【平成22年度の全国学力学習状況調査の結果】 ※全国平均との差 算数A +1.1p、算数B -1.1p、数学A -5.1p、数学B -6.7p</p> <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元ごとに学習内容の定着状況を把握し、事後指導や原因分析につなげることは徐々に浸透してきたが、十分とはいえない。</li> <li>◆ 日々の授業において、既習事項を活用して問題を解決するという実践が十分とはいえない。</li> </ul>	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>全国学力・学習状況調査の代替として全県的に実施した標準学力調査の結果からも同様の傾向にあることから、現状把握は正確であったと判断している。</p> <p>【平成23年度の標準学力調査結果】 ※全国平均値との差 算数 +0.5p、数学 -3.5p</p> <p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>学校訪問や単元テスト活用研修会、数学研修講座における研究協議や資料から要因を特定した。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ すべての小・中学校において、単元テストシステムを活用して、学習内容の定着度を把握し、事後指導を行うというサイクルを確立する。また、学習量の確保も必要であり、そこには算数・数学シートを活用していく。</li> <li>◆ 数学研修講座や授業ガイドブックなどを通して、授業力の向上を図る。</li> <li>◆ 平成23年度全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査で、学校の取組に関する回答の肯定群を現状より増加させる。</li> </ul> <p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元テストシステムの活用状況(ダウンロード、結果の入力)及び入力された正答率の数値で検証するとともに、研修会のアンケート結果を分析する。</li> <li>◆ 学校改善プランの検証シートや学校訪問により授業参観を行い取組の状況を検証する。</li> <li>◆ 平成23年度全国学力・学習状況調査問題の希望利用を活用した調査結果を活用する。</li> </ul>	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>算数・数学の学力向上を目指す上で、平成23年度に達成すべき目標を設定した。現時点では、目標数値も妥当なものであると判断している。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元テストシステムの活用は100%であり、児童生徒の学力の定着状況に応じた事後指導といったサイクルは確立されている。また、算数・数学シートを宿題等で活用することにより学習量も確保されている。</li> <li>◆ 全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙)の結果から、小学校では授業力の向上がうかがえるが、中学校では改善が見られない。</li> <li>・算数・数学の授業の内容はよく分かる児童生徒の割合(H22→H23) 小学校 76.8% → 77.7% 中学校 66.1% → 62.7%</li> <li>◆ 全国学力・学習状況調査(学校質問紙)の結果から、特に、中学校での実生活と関連づけた取組が弱い。</li> <li>・算数・数学で発展的な指導を行った学校の割合(H22→H23) 小学校 54.9% → 55.2% 中学校 54.7% → 56.2%</li> <li>・算数・数学で実生活と関連づけた指導を行った学校(H22→H23) 小学校 65.5% → 61.8% 中学校 52.4% → 43%</li> </ul>
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元テスト(小1～中3)及び算数・数学シートの活用を促進する。</li> <li>◆ 中学校の数学担当教員を対象に、数学研修講座を悉皆で開催する。</li> <li>◆ 単元テストを効果的に活用するための研修会を開催する。</li> <li>◆ 児童生徒の学習意欲や学力の向上を図るために、高知県算数・数学思考オリンピックを開催する。</li> </ul>	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元テストの配信(4/5)</li> <li>◆ 数学研修講座の開催(8/9 参加者178名)</li> <li>◆ 単元テスト活用研修会の開催(4/28東部60名、5/2中部(高岡)67名、5/6中部土長59名、5/12西部79名)</li> <li>◆ 算数シートの改訂(8/25)</li> <li>◆ 高知県算数・数学思考オリンピックの実施 参加者募集(9月)・実施(10月)・応募総数:小学生1979名、中学生1084名</li> </ul>

総合評価と今後の方向	目標達成度 <b>C</b> 「No」を選択した項目 <b>エ</b>	<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元テストの活用の徹底や算数・数学シートを授業、放課後、家庭学習で活用を促進することで、単元ごとに確かな学力の定着を図る。</li> <li>◆ 各種研修会(数学研修講座、単元テスト活用研修会)を教育センターに移管し専門性を高めることで、研修内容の充実を図る。</li> <li>◆ 考えることや解くことの楽しさを実感できる問題にふれる機会として、今後も引き続き思考オリンピックを開催するとともに、授業の素材としての活用も促進する。</li> </ul>
	<p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果から、算数・数学の学力の状況は、全国との正確な比較はできないが、小・中学校とも着実に改善傾向にあることがうかがえる。</li> <li>◆ 一方、中学校においては、授業力の向上に課題が見られるため、各種研修会の内容の充実が必要である。</li> <li>◆ 思考オリンピックに参加した児童生徒の解答には、多様な考え方が見られ、算数・数学への興味・関心や豊かな思考力を育む良い機会となったと考えている。</li> </ul>	